

「高齢者の外出支援対策」
にかかると提言書

令和2年3月31日

瑞穂市地域支え合い推進会議

▼はじめに

瑞穂市地域支え合い推進会議は、地域包括ケアシステムの第 1 層協議体として機能することにより、将来的に持続可能な地域福祉および福祉を支える地域のあり方を検討しています。平成 29 年度に立ち上げ、平成 30 年度には「認知症になっても安心して暮らしていけるまちづくり」にかかる初めての提言を行いました。

本年度(平成 31 年／令和元年度)は、主に高齢者の外出支援対策、具体的には買物や大病院への通院時の交通支援対策にかかる問題を検討し、本報告書において提言を行います。

現在の瑞穂市は高齢化率が 20%代と県内他自治体と比較して低く、地区によっては新築住宅ラッシュが見られることもあり、人口は増加傾向にあります。しかし、瑞穂市においても、近い将来高齢化の影響が顕在化することは避けられません。今後の予想としては現在流入している新入住民が一気に高齢層となり、税収が落ち込む反面、福祉サービスの経費が突然過大なものとなり、サービスや財政が維持できなくなる恐れもあります。

瑞穂市社会福祉協議会(以下、社協)が 2018 年度(平成 30 年度)に行った「外出支援対策マーケティング事業」(調査委託先:朝日大学大学院経営学研究科教授・畦地真太郎)の結果によると、高齢市民は外出の手段として、自家用車の利用に依存していることが分かりました。また、運転できないかたも「家族の車に頼る」割合が多く、このことは、現状でも独居、高齢者世帯などでは外出支援を必要としているかたが潜在していることを示唆しています。また「運転できる今は困っていないが、免許返納後は不安である。」と訴える声が多くなっています。

瑞穂市においては高齢者の外出支援策として瑞穂バスの運行、高齢者タクシーの助成事業、買い物等支援事業が実施されていますが、既存事業の現状と課題についても検証が必要であるという意見が出されました。

今年度の協議体では、以上の調査結果と今後の予想を踏まえ、瑞穂市内で高齢者が買物、通院しやすい支援のあり方と支え合いについて検討を行いました。その結果として、瑞穂市および社協に対し、以下の提言と活動報告をするものであります。

令和 2 年 3 月 31 日 瑞穂市地域支え合い推進会議 一同

平成31年／令和元年度 瑞穂市地域支え合い推進会議

瑞穂市長への提言

1. 現状の移動支援のさらなる充実を提案します。
2. 住民主体での移動支援サービスの立ち上げと、その支援を提案します。
3. コミュニティを主体とした便利な買物の仕組み作りと、その支援を提案します。

▼各提言の具体的内容

上述の3つの提言内容に通底する、会議全体を通じて委員に共有されていた問題意識は次のようになります。

「現状、あるいは未来において、地域の中で交通弱者は必ず存在する。しかし、ハードウェアやサービスを闇雲に充実させるだけでは、後の世代に負債を残すこととなる。自治会や地域の仲間を中心としたネットワークを通じて、互助の精神で買物・通院困難者と助け合えるコミュニティ造りを進めるべきである」

以下では各提言ごとに、議論を通じて発見された課題と、それに対して協議された解決策について具体的に説明します。

1. 現状の移動支援のさらなる充実を提案します。

(1) 買い物等支援事業について

現在、社協やNPOを中心とした自動車による移動支援が、団地部等を中心に行われています。この支援を市内全体に広げ、現在支援の手が届いていない人たちへつなげていくためには、増車や運転手確保が不可欠です。一方で、そこにかかる予算を公費のみで賄うことは、未来に借金をすることになるばかりか、いずれかの時点で予算がなくなりサービスそのものが崩壊するリスクも伴います。

自立した事業継続を支援するためには、利用者の負担増も検討する必要があります。これは、タクシ

一助成での平均的な自己負担額との比較で検討がなされるべきだと考えます。

一方で公助の部分としては、本目的にかかる自動車購入に対する助成金の支給や税の優遇、市や福祉施設で所有する自動車を空車時に貸し出す仕掛けなどの整備が必要と考えます。

(2) その他事業について

市内ですでに実施されている瑞穂バスの運行や高齢者タクシーの助成内容についても現状、課題、問題点を出し、改善策を検討していく必要があるとの意見も出されました。

2. 住民主体での移動支援サービスの立ち上げと、その支援を提案します。

自動車による移動支援、およびその他の形での支援を行うにあたり、地域住民が主体的に活動できる場づくりを行わないと、サービスや事業の継続は不可能であるという議論が行われました。

例えば自動車による移動支援では、住民自身が運転者の役割を担えるよう、タクシー会社や社協からノウハウを学ぶ仕組み作りが必要であるとの指摘がありました。自治会内に外出に関して困りごとを抱える人がいた場合に、法令違反(白タク)にならず、かつ負担も少ない(見合った対価が得られる)持続可能な支援のあり方について、各コミュニティが勉強するべきだということが話し合われました。

さらに「支援が受けられる」ことを知らない人に対する周知活動を強力に進めなければならないということが話し合われました。これからの時代における互助あるいはボランティア活動、コミュニティやソーシャル・キャピタル(社会関係資本)の重要性について、市民への周知と互いに考えていく場の必要性が高く、この点について市と社協に対し支援と施策を求めます。

また、地域には朝日大学があり、相当数の学生が自動車免許を取得しているという情報が得られています。学生ボランティアの一環として、相応の安全対策を行うことを条件として運転者を募集することは、マンパワーの確保につながると考えられます。この点についても、市と社協に対し、朝日大学への助力申し入れについての支援を求めます。

以上より自動車による移動支援においては車両、運転手の確保、法令の遵守など分野を跨ぐ問題があることから市、社協、自治会等それぞれが果たすべき役割の分担と、お互いを補い合うような協働の仕組みが必要と考えます。

3. コミュニティを主体とした便利な買物の仕組み作りと、その支援を提案します。

まずは高齢者に元気でいてもらうこと、そのためにコミュニティでお互いを見守ることが重要であるという意識の共有がなされました。また、これからの地域の店舗のあり方について、地元の(大規模店も含む)店舗で買い物をしないと撤退・廃業されてしまうというリスクについても話し合われました。地域の中で事業者と住民が持続的に共存共栄するために、店舗にもメリットのある形での、コミュニティ主体の買物のあり方が検討されました。

第1に、公民館等に共同購入のための基地機能を持たせるという提案が出されました。現在のスーパーのネット注文、生協の注文、ネット販売は、高齢者にとってデジタル・デバイドもさることながら「老眼でスマホなどの画面を見続けなければならない」という苦痛を生じさせます。各公民館にWi-Fiルータ等によるインターネット回線とタブレット等の接続機器を配備し、地域のボランティアが代理で注文を行えるような仕組みが有効と考えられます。これも、事業者にとってはまとまった注文が定期的に取り、場合によっては各戸配達をしないですむというメリットを持つ一方で、コミュニティ側では見守り機能を持つことが可能となります。

第2に、移動支援サービスもしくは店舗側のサービスとして、巡回送迎型の店舗移動を行うという提案が出されました。例えば各地区公民館等に週2回程度、決まった(店舗の閑散時間帯)にバスが到着し、店舗で買い物をし、また出発地に戻るというようなサービスは有効であると考えられます。これは、コミュニティ側からは誰々さんが長い間顔を見せないという見守りの機能を持ち、事業者側からは閑散時間帯に定期的にとまとめた人数の集客が見込めるというメリットを持つからです。

以上の提案については、インターネット関連のハードウェア整備および事業者との仲介について、公助による支援を求めます。

▼まとめ

瑞穂市地域支え合い推進会議は、地域住民の代表者が主体的に瑞穂市全体が抱える福祉問題を洗い出し、検討を加え、求める対策・施策や、自分たちが行うべき活動について積極的な提案を行うことができる協議体として成長してきました。今年度の提言についても、地域包括ケアシステムの概念に即し、住民主体の活動を円滑に行う上で市や社協の協力が不可欠な部分に対し、要望を提出するものです。

今後の課題としては、提言と支援を求めた内容について、住民自らがどれだけ活動を推進でき

るかということがあります。住民と市・社協が一体となり、持続可能な福祉支援と地域のあり方、「安全・安心して暮らせる瑞穂市」を創り上げるために、活動を推進してゆければと思っております。

令和元年度瑞穂市地域支え合い推進会議（第1層協議体）日程と内容

第1回 7月25日（木）総合センター交流ルーム 参加者26名

オリエンテーション、委員委嘱、外出支援対策マーケティング事業の調査結果説明、意見交換

第2回 8月22日（木）総合センターあじさいホール 参加者27名

外出支援に関するワールドカフェ形式での意見交換

第3回 10月25日（金）総合センターあじさいホール 参加者28名

実際の事例、外出支援、買い物支援を行っている事業者を呼んで事業説明を受ける勉強会と意見共有のワーク

第4回 11月30日（土）総合センター交流ルーム 参加者25名

テーマを買い物支援に絞り、10年後程度の近い将来を想定し、今までの意見の集約と提言書の原案作り

令和元年度瑞穂市地域支え合い推進会議委員

No	所属団体	氏名
1	自治会連合会	宮川 健一
2	自治会連合会	渡邊 昭博
3	自治会連合会	加藤 裕貞
4	自治会連合会	土屋 博道
5	自治会連合会	堀 利通
6	自治会連合会	桂川 忠勝
7	自治会連合会	都竹 健
8	民生委員児童委員協議会	大野 豊美
9	民生委員児童委員協議会	二重谷 伸行
10	民生委員児童委員協議会	磯谷 好子
11	民生委員児童委員協議会	小川 昭子
12	民生委員児童委員協議会	小森 秀夫
13	民生委員児童委員協議会	高橋 睦夫
14	民生委員児童委員協議会	堤 常彦
15	学識経験者	畦地 真太郎
16	サミット参加者	奥田 尚道
17	サミット参加者	石谷 幸裕
18	日赤奉仕団	矢野 輝子
19	老人クラブ連合会	棚瀬 久子
20	老人クラブ連合会	松野 ちか子
21	高齢者介護施設	坪内 貴志
22	居宅介護支援事業所	安田 正子
23	障がい者当事者家族団体	阿部 久美子
24	商工会	中島 隆之
25	シルバー人材センター	梅田 卓夫
26	ボランティア団体	見吉 時夫
27	NPO法人	村上 幸子
28	NPO法人	矢野 幸子
29	ふれあい・いきいきサロン	加藤 孝子
30	一般（学生）	安江 真里
31	一般（学生）	岩永 有加